

第82回 東葛しぜん観察会

干潟の生き物と遊ぼう

河野静雄（松戸市）

日 時：2012年7月21日（土） 天気：曇り時々小雨

場 所：ふなばし三番瀬海浜公園（船橋市）<干潮 12:22 潮高 25cm>

参加者：大人13名 子ども8名 計21名、指導員17名

担当指導員：山口正明、田島正子、河野静雄

前日からの雨で開催が危ぶまれましたが、山口さんの判断により開催と決定しました。集合の9時30分には参加予定の皆さんが元気に集まり、山口さんより本日の日程と潮の満ち引き・干潟について説明がありました。3つのグールに分かれ、海へ出発です。東日本大震災の影響で海底の沈下で道路が沈んでいる様子が見られ、干潟も半減していました。潮干狩りもようやく再開されていました。海岸の松林は未だ立ち入り禁止です。私は今回指導者の一員に加えていただいているものの、初めての観察会の指導ですので、細かい指導は無理かなと思っておりました。しかしグール内にベテランSさんがおられ、子ども達に的確な説明をしてもらいました。

海辺に荷物を置き、9ファミリー幼稚園児を含む子どもたち8名は、元気に干潟に採集道具を持ち繰り出しました。二枚貝のアサリ、シオフキガイ、バカガイ多数、巻き貝のアラムシロガイ、タマキビガイ、その他コメツキガニ、イソガニを採集。少し沖合ではシロスジフジツボを発見、イソギンチャクも見つけて歓声があがる。なんと言っても動く生き物に人気があり、「ヤドカリチャンピオン」のゲームで自分の選手を出そうと親子が一生懸命で捕獲し、牛乳パックの競技場で開始した。小さいヤドカリが意外と敏速で1等賞を取るなど盛り上がった。「二枚貝の砂潜り」にも選手を出して挑戦した。最初は中々動かなかったが、しばらくすると縦になりぐいぐい砂の中に潜り込んで行く。また、ケーキのモンブラン様に砂がこんもりしているところが随所にあり、これがタマシキゴカイの糞塊と分かると気持ち悪がったが、砂を掘り大きなミミズのようなゴカイを手でつかむ子も現れた。近くのミズ袋は卵のうと説明され破らないように注意があった。危ないと言われたアカクラゲやアカエイには遭遇しなかった。ミズクラゲは数体見かけた。

11時20分には雨がひどくなり、駐車場近くの屋根のある所に移動し、生き物をバットに移し、観察した。二枚貝の浄化実験を行い、干潟の役割を指導員のTさんから気持ちを込めてお話しがあった。

今回の観察会は「生き物と遊びを通して、干潟の豊かさと生物環境には果たしている機能を体感してもらう」ことは達成できたのではないかと思います。

